

塘研究室学会参加報告 03

9月17-19日に新潟県の朱鷺メッセにて、第86回日本動物学会大会が開催され、塘研の大学院生の大平君、兼子研の学類生の佐藤浩一君と塘研の学類生の林君、塘が参加しました。学会は初日と3日目に口演発表、初日の夜にシンポジウムと関連集会、2日目の午前中にシンポジウム、2日目の午後に本部企画講演会、3日目は口演発表の他に高校生ポスター、公開講演会、動物学ひろば（様々な研究材料の生体展示と紹介）、というスケジュール・企画でした。大平君と佐藤君は初日（17日）の午後に口演発表を行いました。大平君のタイトルは「日本産土壤性 *Mundochthonius* 属（カニムシ目）の分子系統解析に基づく分類学的再検討（大平・兼子・塘）」で、佐藤君のタイトルは「単為生殖種と推定されるチビコケカニムシの種内における分子系統学的研究（佐藤・大平・塘・兼子）」でした。国際会議場でもある朱鷺メッセで発表できるとは羨ましい限りです。今回が学会デビューの佐藤君はしっかりと時間内に発表を終え、質問に対する応答もそつなくこなし、堂々としたものでした。初日は生憎の雨でしたが、2日目には雨も上がり、良い天気となりました。私は福岡での昆虫学会が19日から始まるため、2日目（18日）の午前中のシンポジウムを聞いた後、新潟から福岡へと移動しました。



動物学会の会場となった「朱鷺メッセ」

大平君と佐藤君が発表した発表会場

第75回日本昆虫学会大会は福岡県の九州大学箱崎キャンパスにて、9月19-21日の日程で開催され、塘研の大学院生の緒勝君と木目澤さん、塘が参加しました。学会は初日の午前中、2日目と3日目の午前中に口演発表、2日目の午後に公開シンポジウム「昆虫博士になるには」、夜に小集会、3日目の午後にシンポジウム、夜に小集会というスケジュールでした。企画は小中高校生によるポスター発表の他に、主に小学生による自分の自慢の昆虫標本を展示する「昆虫じまん」がありました。緒勝君と木目澤さんは2日目（20日）に口演発表を行いました。緒勝君のタイトルは「福島県裏磐梯地域におけるオサムシ科甲虫群集と環境要因の関係」、木目澤さんのタイトルは「*Thrips* genus-group（アザミウマ目：アザミウマ亜科）に属するアザミウマ類の分子系統解析（第2報）」でした。二人とも昨年度に続く昆虫学会での発表であり、データも増えたので、まとまりのある発表となりました。本質的な質問や意見もいくつ

か頂けたので、それらを修士論文作成に活かして欲しいと思います。

動物学会では会場内での写真撮影は禁止、昆虫学会でも発表スライドの撮影は演者に許可を得た場合に限るなど、最近学会などで増えていた発表中のスライドを遠慮無く撮影する行為を抑止する動きが顕著になった学会でした（そのため、動物学会の発表風景の画像はありません）。



発表前の緒勝君



発表中の木目澤さん